

評価結果報告書

1. 評価の視点

「0歳児 月齢差に応じた環境設定」

2. 分科会評価者からの意見、感想、アドバイス

興味の持ち方や体の使い方、手指の操作性など個人差が大きく、棚のおもちゃを次から次へと落としていたり、おもちゃを舐めて確かめることがいたりする一方で、おままごとのおもちゃを並べて簡単な見立てあそびをする子もおり、月齢や発達の違いが大きいことや歩き始めの子どもの探索を重視したレイアウトが成長するにつれ、じっくり遊びたい子が落ち着いて遊ぶことが難しくなっていないかと感じることがあり、保育室の環境、保育者の関わり、子どもの遊ぶ様子を見ての感想や改善点、他園でのそれぞれの遊びが満たされるような環境づくりの工夫について見てもらった。

公開保育では、朝の思い思いの遊びやおやつ、オーガンジー布を使ったわらべうた遊びやお散歩などを行った。保育室に入るとすぐに室内の環境をじっくり見る先生が多く写真や動画を撮影したり、保育者に室内の環境や保育内容などの色々な質問をされたりして、問いに即した質問というよりは、自園の保育に生かしたいという視点で見学されていた先生が多かったように思う。

分科会では、保育室や保育者を含めた雰囲気の高さや手作りおもちゃの豊富さ、絵本や棚の置き方などの環境面の工夫や、わらべうた遊び、保育者の穏やかで温かい関わり、静と動のバランスなどの保育内容についてお褒めの言葉をいただき、日々の保育の頑張りを認めていただいたようでとても嬉しく、自分たちが気付いていない良さも知ることができた。

評価の視点についてのフィードバックは少なかったが、コーディネーターの先生からは「問い」に対しての意見があまり活発に出てこないのは、それだけ質の高い保育が行われているということだ」と評価していただいた。遊びの場面では分けることをしていないという園や分けることでリラックスできる子もいる、サークルがある、パーテーションを使用しているなどの各園の取り組みや、色々な保育観を知ることができた。また0歳児クラスの食事をする場と遊ぶ場がわかれていない園共通の悩みとして食後の片づけ時に落ちたものを拾って食べるなどの誤食を防ぐことに苦労しているとのことで、その環境の工夫や分科会で話し合われたことをまた担任間でよく話し合い考えながら改善していきたいと思った。

ECEQの事前研修の過程で自園の良さや課題を考え、「問い」づくりの研修を経て、0歳児の担任間で、色々なことを話し合い、普段の保育の中ではなかなか深く話し合うことのできなかった各々が保育の中で大切にしていることや、子どもの育ちや課題などについてじっくり話し合う機会が持てたことはとても良かった。

公開保育後にも、助言していただいたことを担任間で話し合い室内のレイアウトを少し変えるなど環境の見直しにも取り組み始めたところである。これで終わりではなく、この一連の取り組みを繰り返しながらよりよい保育につなげていきたいと思う。